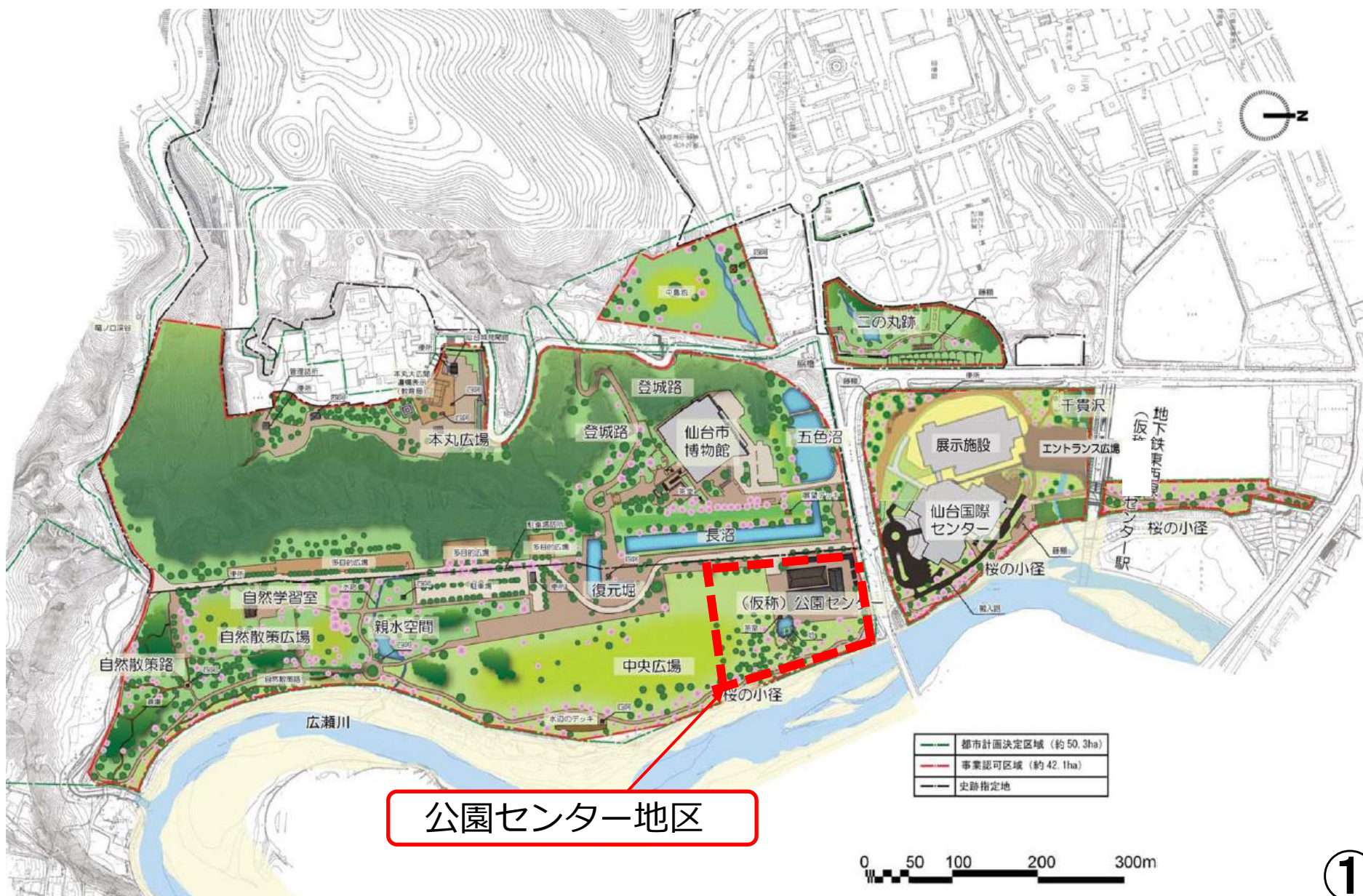


青葉山公園  
(仮称)公園センターの整備状況について

# 青葉山公園整備基本計画



## 青葉山周辺の課題

- ・ 青葉山の情報発信がなく、公園全体を把握しにくい。
- ・ 景観を楽しみながら、屋外で飲食できる施設が少ない。
- ・ 気軽に休憩できる場所が少ない。
- ・ 日用品を販売する施設が少ない。

## 近年の公園へのニーズ

- ・ 市民活動団体や民間事業者との連携。
- ・ より柔軟な公園の利用。
- ・ イベント利用による活性化。

**楽しむ**

情報発信の場所

**憩う**

飲食・休憩の場所

**集う**

体験・交流の場所

青葉山公園の

**エントランス**

となる

**「公園センター」**の整備

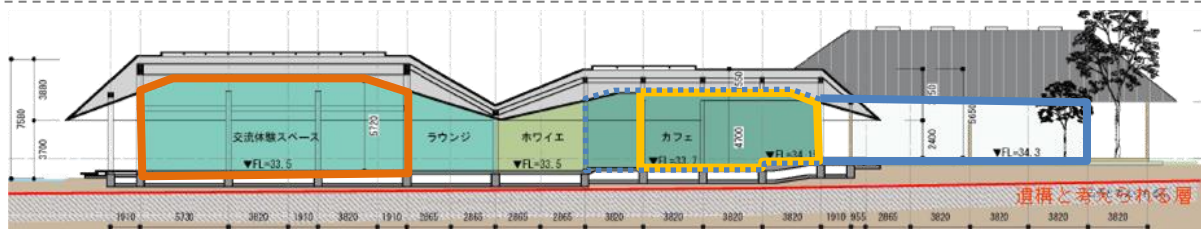
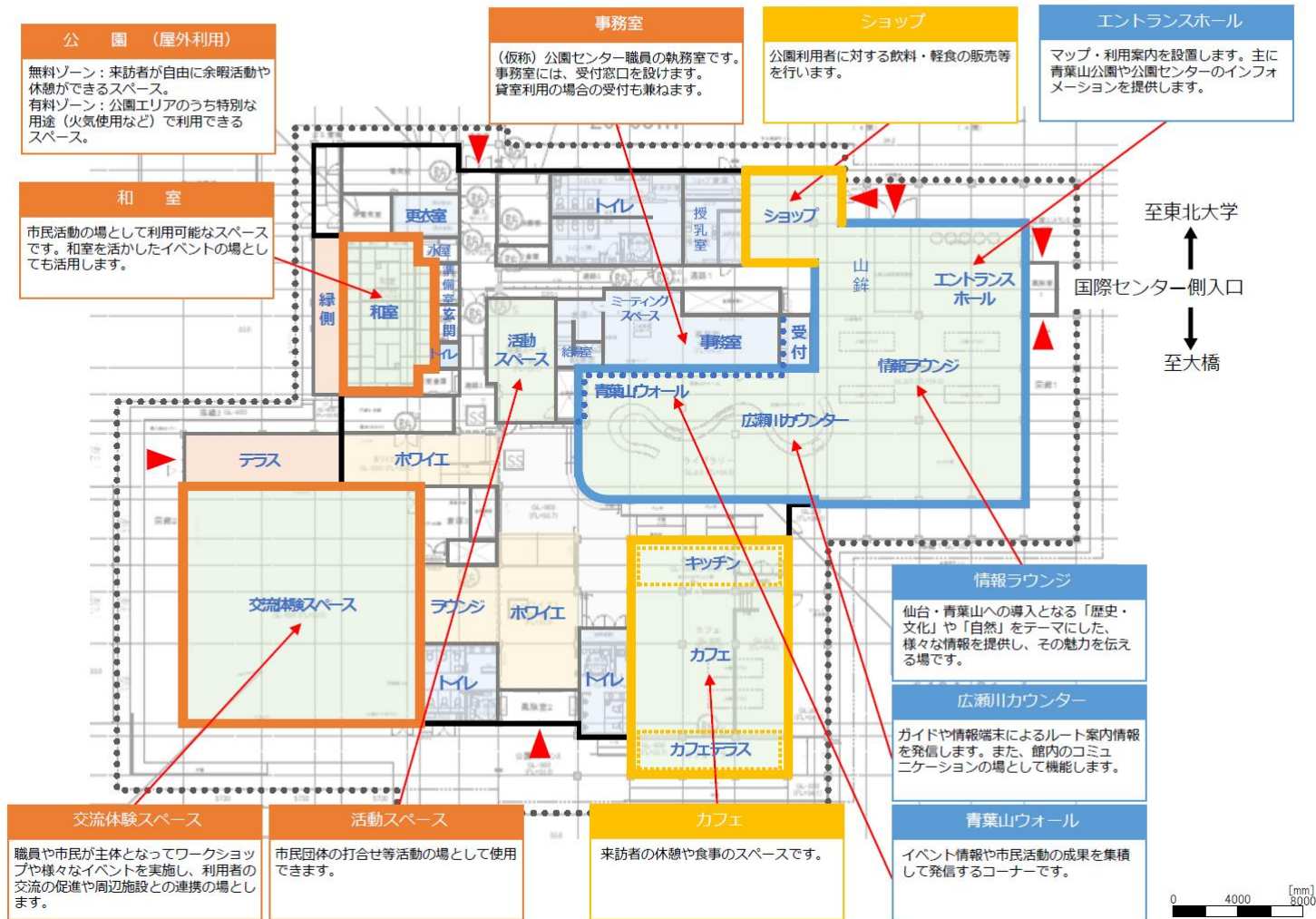
# (仮称) 公園センター



※公園センター基本設計より抜粋



# (仮称) 公園センターのレイアウト



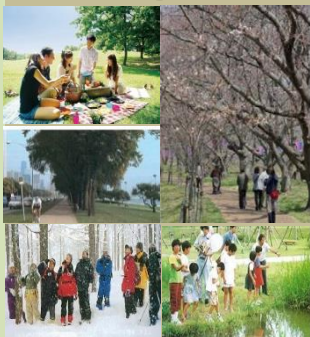


# 展示の概要 (検討中)

## 森とは

青葉山は、北から延びる広瀬川と南に滝ノ口溪谷、東の断崖に西の御裏林と、四方を手つかずの自然が囲む特徴的な地形です。公園センターを森への導入部とし、天然の自然体験が行えます。

森



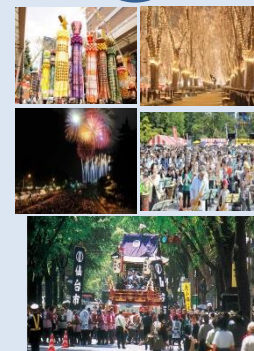
手付かずに残された  
青葉山の自然  
広瀬川



## 杜とは

伊達政宗の時代より受け継がれる「杜の都」という景観。自然と人々の暮らしが溶け込んだ仙台ならではの風景を、青葉山を中心に発信し続けます。

杜



伊達の文化が、  
都市と自然を結  
びつけた

森と杜を結ぶコンテンツを楽しむための  
エリア・インフォメーション



# 情報ラウンジの役割(検討中)

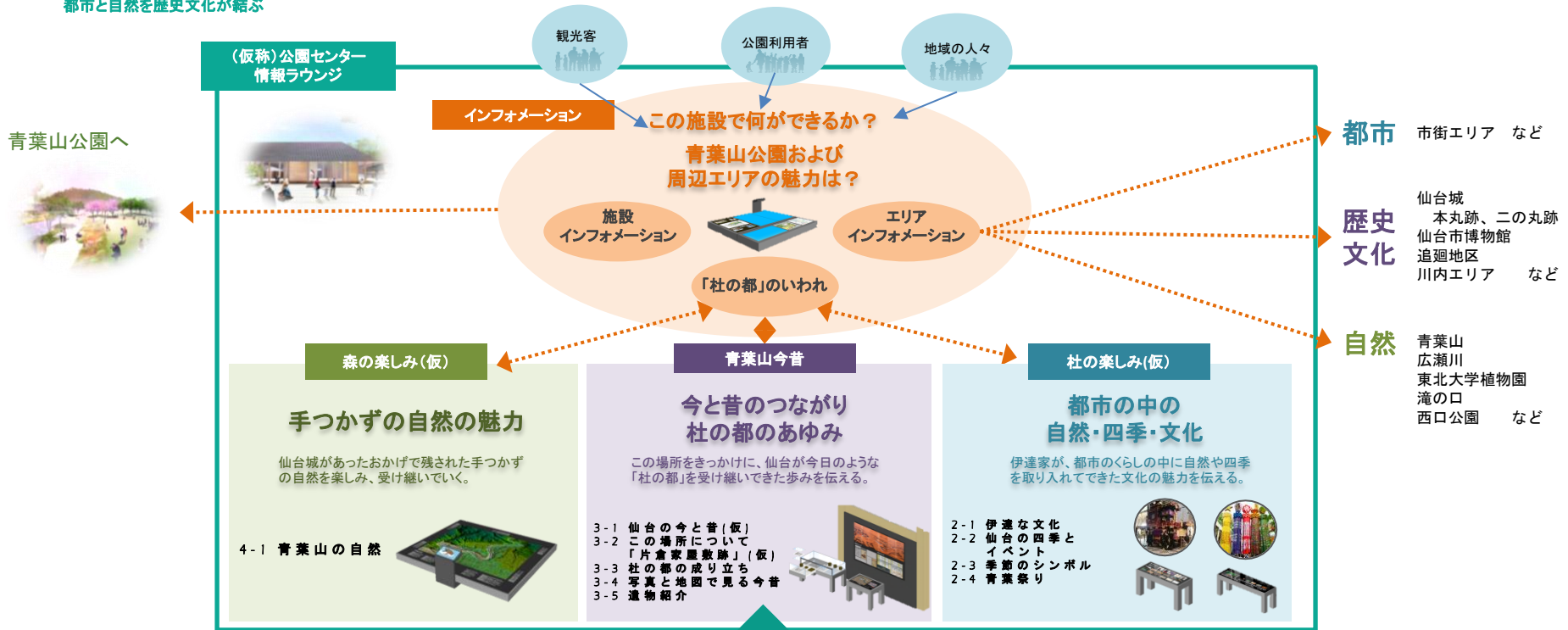
「杜の都」の源泉としての「青葉山の魅力」



都市と自然を歴史文化が結ぶ

仙台がどのようにして「杜の都」となったのか、その源泉としての「青葉山の魅力」に気付くきっかけを提供する

- 青葉山に仙台城を建てたことで都市の中に自然や四季を取り入れた伊達の文化が、現代にも受け継がれていること
- この場所が、都市と自然を歴史文化が結ぶ「杜の都」のシンボリックな場所であること
- 「青葉山の魅力」が多くの市民によって語られ、受け継がれ、さらに磨かれて、新しい仙台の魅力を創りだしていること



市民と集めた「青葉山の魅力コレクション」をコンテンツに反映

